

遺跡を前にして思うこと

渡辺 務

これまで随分と多くの遺跡調査に携わってきたが、調査に臨む時、今度はどのような遺跡に巡り合うのだろうか。という期待で気持ちが高揚する。事前に多くの情報を得て、調査を実施するのがあたりまえになってきた昨今の調査にあっても、この感覚を未だに失うことなく持ち続けている。遺跡の調査で確認した住居跡を前にして、この場所でどのような暮らしが営まれていたのだろうか。などと思い巡らせている時間も楽しいものである。

しかし現実の調査となると、なぜそんなに同じような住居跡を時間と費用をかけて、調べる必要があるのか。1、2軒も掘ればその遺跡のことは分かりそうなものを…。という疑問を抱く、我々とは対極的な立場に身を置く人々の数も、未だに減らないように感じる。

遺跡見学会や出土遺物、遺跡などの紹介を行う展示会の開催は、遺跡調査に対する基本的理解を得るための最も一般的な対応であろう。それ以外では、埋蔵文化財についてどのような周知活動が行われているのだろうか。

遺跡調査によって出土した遺物の九割以上は、一旦報告されると、二度と一般市民の方々の目にふれることなく、倉庫に眠ることになる。ほんの一握りの出土品のみが、博物館や資料館で展示されるだけである。しかも、展示替えされることもなく、何年もそのままということも決して珍しいことではない。年々蓄積される資料の活用の重要性は、今更ここで繰り返すまでもない。ただ実際、有効な資料活用を行うためには、多くの手間とある程度の費用が必要にな

ることは避けられない。現在の考古学を取り巻く環境が、これらの事情に対して決して寛大でないことも、現実の問題として我々の前に横たわっている。この問題に立ち向かうためには、かなりのエネルギーが必要であることは多言を要しない。

調査によって明らかになる歴史史料は、たとえ断片的なものであっても、地域の歴史を明らかにしていくためには非常に重要なものである。調査の基本として、常に地域に根ざした研究姿勢を忘れてはならないものと、日頃筆者は心がけている。地域に根ざした研究は、その成果を適切に地域住民へ還元する努力を継続することによって、人々が地域の歴史についての興味を深め、良い意味での地元意識を高めることにつながるものと信じている。そしてそれは、前述したような困難を研究者が乗り越えようとする時、力強い後押しとなってくれることだろう。そのためにも神奈川県考古学会のように、多くを一般会員の方々が占める、組織の活動の重要性と、存在意義が大いに問われることとなるのであろう。

発掘調査に携わる人間は、調査と称して、遺跡の処理にのみ奔走するようなことだけは、避けねばならない。地域に根ざした研究姿勢は、このような状態に陥らないためにも、重要な心構えとなるものと思う。

多くの困難に直面しながらも、日々奮闘されている多くの関係者の皆様にとって、何を今更という分かりきったことへの言及や、失礼な発言については、どうぞお許しいただきたい。

2008 年度総会を開催

さる5月10日(土)、2008年度の総会を神奈川県埋蔵文化財センターで開催しました。ここに総会の内容を報告します。

会則に則り、岡本孝之会長を議長に選出した後、以下の議事が総会に諮られました。

- 議事1 2007年度事業報告
- 議事2 2007年度収支決算報告
- 議事3 2008年度事業計画(案)
- 議事4 2008年度収支予算(案)

議事1 2007年度事業報告

(総会)2007年度総会を、2007年4月28日に、かながわ労働プラザにて開催。

(役員会・幹事会)2007年4月11日、6月13日、7月18日、9月12日、11月14日、2008年1月16日、3月12日の合計7回をかながわ労働プラザで開催。

(会誌)『考古論叢神奈河』第16集を2008年3月31日に発行。

(連絡誌)『考古かながわ』38号(8月)、39号(3月)を刊行。

(講座)2008年3月2日、かながわ県民センターホールにて「新神奈川・新弥生論」と題して開催。参加者は150名。

(発表会)第31回神奈川県遺跡調査・研究発表会を2008年1月20日に横浜市歴史博物館講堂で開催。参加者は160名。

発表は、午前中に小特集：再発見 神奈川の古墳と題して、横浜市観音松古墳、逗子市・葉山市長柄桜山古墳群第1号墳、横須賀市大津古墳群、伊勢原日向・洗水遺跡の4地点の調査報告が行われました。

昼食をはさんで午後からは、各時代の調査報告として、相模原市津久井城跡、秦野市太岳院遺跡、海老名市河原口坊中遺跡、小田原市愛宕山遺跡第Ⅱ地点、鎌倉市今小路西遺跡、小田原市大久保弥六郎邸跡第Ⅲ地点の旧石器時代から近世までの6地点の調査報告が行われました。

(見学会)県内における史跡、遺跡等の見学会として計3回が計画されました。

第1回は、2007年10月27日に三浦市赤坂遺跡発掘調査現場を予定しましたが雨天のため中止となりました。

第2回は、2007年11月25日に横須賀の近代遺産・遺跡をめぐるⅡと題して、軍都横須賀・横須賀海軍工廠と観音崎砲台跡の見学を行い、参加者34名でした。

第3回は、2008年3月22日に海老名市の河原口坊中遺跡の見学を行い、参加者55名でした。

(ホームページの運営)2007年度に立ち上げた、ホームページの管理・運営を行いました。また、メーリングリストの運営も併せて行いました。

(20周年記念事業のための積立)20周年記念事業のために150,000円の積立を行いました。積立総額は、2006年度から2007年度分を併せて900,000円となっています。

議事2 2007年度収支決算報告

2007年度の収支決算が報告され、監事からの会計監査報告が拍手をもって承認されました。

議事3 2008年度事業計画案

(総会)総会は2008年5月10日、神奈川県埋蔵文化財センターにて開催。



2007年度 収支決算報告

(収入の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
会費	1,140,000	1,044,000	▲ 96,000	旧年度会費 3,000 × 47 名 = 141,000 本年度会費 3,000 × 268 名 = 804,000 次年度会費 3,000 × 33 名 = 99,000
機関誌等売り上げ	600,000	604,750	4,750	発表会要旨 177,430 考古論叢 125,840 講座要旨 301,480
雑収入	5,000	76,451	71,451	送料/預金利子/他 76,451
繰越金	815,150	815,150		
合計	2,560,150	2,540,351	▲ 19,799	

(支出の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
事務局費	170,000	169,858	▲ 142	連絡費 89,208 会場借上費 50,180 事務費 4,510 行事開催費 6,320 賃金 0 会費振込手数料 19,640
会誌費	610,000	3,040	▲ 606,960	連絡費 3,040 会議費 0 印刷費 0 ※会誌印刷費については、次年度に支払い 謝礼 0
連絡誌費	200,000	165,680	▲ 34,320	連絡費 20,840 印刷費 143,034 事務費 1,806 謝礼 0
発表会費	460,000	278,840	▲ 181,160	連絡費 15,350 会議費 0 行事開催費 990 印刷費 262,500 謝礼 0
講座費	430,000	362,159	▲ 67,841	連絡費 23,250 会議費 8,090 行事開催費 37,869 印刷費 292,950 謝礼 0
見学会費	95,000	69,425	▲ 25,575	連絡費 61,500 会議費 7,925 行事開催費 0 謝礼 0
ホームページ運営費	60,000	35,280	▲ 24,720	手数料 630 HP年間使用料 34,650 ※サーバー年間(2007.4~2008.3)使用料金
記念事業積立金	150,000	150,000	0	
予備費	385,150	0	▲ 385,150	
合計	2,560,150	1,234,282	▲ 1,325,868	

※ 収入 (¥2,540,351) - 支出 (¥1,234,282) = 次年度繰越金 ¥1,306,069

※ 現在、記念事業積立金として郵便局定額預金に 900,000 円が有ります。

内訳 2006年度 750,000 円、2007年度 150,000 円

(役員会・幹事会) 4月23日(かながわ労働プラザで開催)以降、おおむね2ヶ月に1回の間隔で年6回程度の開催を予定。

(会誌) 『考古論叢神奈河』第17集を2009年3月に刊行予定。

(連絡誌) 『考古かながわ』40号、41号として

2008年度 収支予算（案）

（収入の部）

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
会費	1,221,000	1,140,000	81,000	会費 3,000 円× 407 名= 1,221,000 円
機関誌等 売り上げ	600,000	600,000	0	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売り上げ
雑収入	5,000	5,000	0	預金利子・雑収入等
繰越金	1,306,069	815,150	490,919	前年度繰越金（2007年度会誌印刷費を含む）
合計	3,132,069	2,560,150	571,919	

（支出の部）

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
事務局費	170,000	170,000	0	連絡費 50,000 会場借上費 70,000 事務費 10,000 行事開催費 10,000 会費振込手数料 30,000
会誌費	1,190,000	610,000	580,000	連絡費 10,000 事務費 10,000 印刷費 1,160,000 ※2007年・2008年度2ヶ年度分、 発送費を含む 謝礼 10,000
連絡誌費	200,000	200,000	0	連絡費 20,000 ※年2回発刊予定 事務費 30,000 印刷費 150,000 ※年2回発刊予定
発表会費	460,000	460,000	0	連絡費 25,000 事務費 5,000 行事開催費 60,000 印刷費 350,000 謝礼 20,000
講座費	430,000	430,000	0	連絡費 10,000 事務費 10,000 行事開催費 100,000 印刷費 290,000 謝礼 20,000
見学会費	95,000	95,000	0	連絡費 70,000 ※連絡ハガキ代等 事務費 10,000 行事開催費 5,000 謝礼 10,000
ホーム ページ 運営費	60,000	60,000	0	事務費 10,000 サーバ使用料 40,000 謝礼 10,000
記念事業 積立金	150,000	150,000	0	※20周年記念事業積立金
予備費	377,069	385,150	▲ 8,081	
合計	3,132,069	2,560,150	571,919	

（記念事業積立金）

2008年度積立金総額	1,050,000 円
-------------	-------------

年2回の刊行を予定。

（講座）2009年1月～3月に開催予定。テーマは「縄文時代の貝塚（仮）」、開催場所は未定。

（発表会）第32回神奈川県遺跡調査・研究発表会を、10月～12月に開催予定。開催場所は未定。
※講座・発表会については7頁お知らせ参照。

(見学会) 県内の発掘調査現場において年3回の開催を予定。

(ホームページの運営) 神奈川県考古学会のホームページの一層の充実を図ります。

(20周年記念事業のための積立) 20周年記念事業のために150,000円の積立を行います。

議事4 2008年度収支予算案

上記の事業計画案とともに2008年度の収支予算案が審議され、満場一致で拍手により承認されました。

(総務担当役員 宮坂淳一)

かながわ考古学トピックス 2007

5月10日の2008年度総会の議事終了後に、かながわ考古学トピックスを開催し、会場がいっぱいになるほどの多くの参加者を得て、ホットな話題をご講演いただきました。

トピックス1本目は、横浜開港150周年を目前に控えて、横浜都市発展記念館の青木祐介さんより「近代都市の考古学 横浜の近代遺跡をめぐって」というテーマでご講演いただきました。

近年における近代遺跡の相次ぐ発見や、近代遺跡をテーマにした展示の開催により、横浜の地下に眠る近代の埋設管や建物基礎などの遺構、煉瓦、ジェラルール瓦といった近代遺物が注目されるようになってきたといえます。

講演では特にジェラルール瓦の産みの親でもあるジェラルールと山手の瓦工場に触れています。



トピックス1 青木さん講演状況

ジェラルールはフランス北東部のランスでパン屋の息子として生まれ、幕末の1863(文久3)年に来日したようです。山手に工場を建設し、煉瓦・フランス瓦の製造販売や山手の湧水を利用した船舶給水事業を行っていたようです。瓦工場は明治末頃まで続き、現在も元町に煉瓦造の地下貯水槽(ジェラルール水屋敷地下貯水槽)が現存し、昔の面影を今に残しています。

ジェラルールの瓦工場については、工場の外観・内観を描いた明治期の銅版画による画像資料が残っており、工場の構造や各種設備について窺い知ることができます。それに加え、近代遺跡としてのジェラルール工場の最新の発掘調査成果と照らし合わせた研究をされています。発掘調査ではジェラルール水屋敷地下貯水槽脇の道路より、断面形態が円形と方形の溝入り土管が出土しており、ヨーロッパで実用化していた導水管と煙道管と考えられています。その他、新発見デザインのジェラルール煉瓦も出土しています。

2007年に発掘調査された山下居留地遺跡では多くの遺構・遺物が発見され話題を呼びました。こうした近代遺跡の価値について、まちづくりのなかで文化財と都市空間を融合させ、活かし、伝えていくことができるかが今後の展望として述べられました。

横浜開港150周年を来年に控えていることもあり、非常に興味深く聞かせていただきました。近代遺跡の調査研究・保存・活用の実践として今後もその動向を見ていきたいと思えます。

(連絡誌担当役員 中川真人)

トピックス2本目は、横須賀市教育委員会の中三川昇さんより、「横須賀市乗越(のりごし)遺跡発掘調査の概要」というテーマで、新発見の古代瓦窯跡群の調査成果について報告していただきました。

乗越遺跡は横須賀市の北東部に位置し、相模湾に面した丘陵斜面に立地しています。遺跡のすぐ南には小さな入り江が広がっていて、かねてより入り江の砂浜などで古代の瓦片が数多く採集され、近くに瓦窯または瓦の積み出し港の



トピックス2 中三川さん講演状況

存在が想定されていたといえます。

昨秋、宅地造成中に開口した横穴墓1基と登り窯3基が発見されたのをきっかけに2回の発掘調査が行なわれました。最終的に奈良時代の登り窯5基、平窯3基の計8基の瓦窯が発見され、さらに多くの窯跡が周辺に残されている可能性があるということでした。横穴墓は1基のみの発見で、奈良時代初め頃まで墓として利用されたのち、瓦窯の操業に伴い資材置場などとして再利用された可能性もあるということでした。

登り窯、平窯ともに硬い岩盤を割り貫いた地下式の構造をとるものです。平窯はすべて牀(しょう=ロストル)という通焰用の施設を持っていて、狭い空間の中、熱効率が上がる工夫が施されています。

登り窯のうち2基では須恵器を焼いていたことも分かりました。確実に「相模国」といえる中で、古代の須恵器窯の発見は初めてのことで、研究史上画期的な成果といえます。ただし、ここで焼かれていた須恵器は一般集落ではなく寺院などへの特注品として供給されたようで、瓦とともにこれら須恵器の供給先の解明が、今後の課題として示されました。

現地調査の際、何度か見学にお邪魔しましたが、入り江越しにみる大海原はキラキラと輝いていて、切り取った一枚の絵のようでした。この静かな海を介して時代変革のシンボルともいえるべき古代寺院に瓦が運ばれた情景を思い浮かべると、少し不思議な気分になったのを憶えています。そんなことを思い出しながら、報告を伺っていました。

(総務担当役員 押木弘己)

河原口坊中遺跡見学会参加記

織田敏雍

3月22日(土)、2007年度の第3回見学会が河原口坊中遺跡で行なわれた。参加者は55名。日頃の心がけが良いメンバーばかりで、3月にしては汗ばむほどの好天にめぐまれた。

河原口坊中遺跡は、海老名市西部、JR相模線・小田急線厚木駅の北西約1kmに位置し、相模川中流域の左岸に形成された、標高21~22mの自然堤防に立地している。

さがみ縦貫道路建設事業などに伴う発掘調査として、平成18年6月から、かながわ考古学財団によって継続的に調査が行なわれている。

今回は一般の方を対象とした「発掘作業見学会」への県考古学会としての参加であったため、遺構の詳細な説明は少なく物足りない面はあったものの、発掘作業の具体的方法については、わかりやすい説明を聞くことができた。

はじめに土層の説明があったが、弥生時代から近世まで堆積の状況がよく分かる表示がされていた。この遺跡では、これまでの調査で各時代の遺構や遺物が発見されているとのこと、弥生時代以降連綿と人々が生活してきた場所といえよう。

とはいえ、周囲を見渡してみると、遺跡のすぐ西側は相模川の河川敷である。眺めはずばらしいが、とりたてて住むのに好条件な所とはいえそうにない。古来、暴れ川といわれてきた相模川の度重なる洪水・氾濫に悩まされながら、この場所に居住域や墓域を営みつづけてきた理由はなんだろうと、思いをめぐらせてしまう。

遺構としては、これまでに9基が発見されている古墳時代の小石室を見ることができた。

長方形の石組みの内部は長さ0.8~1.5m、幅0.4~0.5m、壁の高さは0.4mほどと報告されている。墳丘や周溝を伴うのかはこれまでのところ不明とのこと。相模川の川原石を利用して、7世紀ごろ作られた可能性があるという。

すでに石組みの礫は取り上げられていたが、浅く掘りくぼめられた部分から、大きさは十分

確認できた。写真で見る限りは、古墳の横穴式石室と似ているもののあまりに小さい。

うち1基からは、首飾りの一部と見られる管玉、水晶の玉、ガラスの小玉がまとまって出土したとのことである。これが副葬品とすると、子供の墓？再葬墓？なんとも謎めいた遺構である。

出土遺物は数多く並べられていたが、なかでも注目は県内で3例目の出土となる小銅鐸であろう。弥生時代後期のものと推定され、全高7.9cm、長径4.1cm、短径3.4cm青銅製のほぼ完形品。埋納されたと思われる状態で出土したとのことであった。

小銅鐸はなにを語ってくれるのだろうか。この遺跡の性格を解き明かすカギとなるのだろうか。私自身は2月の地域巡回展以来3回目の対面であったが、何度見てもあきない。

この遺跡では、土器や石器のほかに、弥生時代中期頃のものと考えられる古い川跡が4～5mの深さから発見され、そこからは農具をはじめ豊富な種類の木製品が良好な状態で出土している。

そのなかの一点の前でくぎ付けになってしまった。木製の高杯である。ごく普通の高杯だが、かなり変形している。土圧によるものと説明されたが、いったいどのくらいの期間土中に埋もれ、どんな力が加わるとこんな形になるのか、興味は尽きない。ともあれ、これはこれで一種



河原口坊中遺跡見学会風景

の造形美(?)が感じられた。

これまで神奈川県内では、弥生～古墳時代といえば、台地や丘陵上の調査によって語られてきたように思う。しかし、近年では低地遺跡の調査が進められ、成果が蓄積されてきているのではないだろうか。

特に相模川中流域では、当遺跡をはじめ、社家宇治山遺跡、中野桜野遺跡などの調査によって、自然堤防地帯における弥生～古墳時代の様相が次々と明らかになってきている。当分の間、相模川中流域の低地は目の離せない地域といえそうである。

なんでもみてやろう、との思いで参加する見学会だが、今回もたいへん勉強になり好奇心も満たされた一日になった。

神奈川県考古学会主催事業のお知らせ

○第32回神奈川県遺跡調査研究発表会

日 時 平成20年10月25日(土) 午前10時10分～午後4時40分頃
会 場 横浜市歴史博物館 講堂(横浜市都筑区中川中央1-18-1)
交 通 横浜市営地下鉄センター北駅から徒歩5分
内 容 午前中は小特集「近代遺跡にみる神奈川の夜明け」と題して3遺跡の調査報告を行います。午後は調査・研究発表により、縄文時代から中世までの調査報告6本を行います。会場にて図書交換会も行う予定です。

○2008年度考古学講座 『神奈川の貝塚』

日 時 平成21年3月8日(日) 午前10時00分～午後5時00分
会 場 横浜市歴史博物館 講堂
内 容 神奈川の貝塚をテーマに講座を行います。

＼(^o^)／

催し物情報

＼(^o^)／

【展示会】

『縄文文化円熟－華蔵台遺跡と後・晩期社会－』

主催：横浜市歴史博物館

後援：神奈川県考古学会ほか

期間：平成20年10月4日～11月24日

会場：横浜市歴史博物館

問い合わせ先：横浜市歴史博物館

電話 045-912-7777

【遺跡見学会】

勝坂遺跡発掘調査現地説明会

日時：平成20年11月16日（日）

午後1時～3時

場所：相模原市磯部字勝坂

（勝坂遺跡公園暫定駐車場あり）

問い合わせ先：相模原市文化財保護課

電話 042-769-8371

『「古の農」－古代の農具と秦野のムラー』

主催：秦野市立桜土手古墳展示館

期間：平成20年10月25日～11月30日

会場：秦野市立桜土手古墳展示館

問い合わせ先：秦野市立桜土手古墳展示館

電話 0463-87-5542

長柄桜山古墳群発掘調査現地説明会

日時：平成20年11月22日（土）

午前10時～12時、午後1時～3時

場所：長柄桜山古墳群第1号墳

（公共交通機関をご利用ください。）

問い合わせ先：逗子市・葉山町生涯学習課

電話 046-872-8153・046-876-1111

『みてみて津久井 ただいま調査中！！』

－ワクワクな文化－』

主催：相模原市立博物館

期間：平成20年10月4日～11月30日

会場：相模原市立博物館

問い合わせ先：相模原市立博物館

電話 042-750-8030

二子塚古墳発掘調査現地説明会

日時：平成20年11月29日（土）

午前11時～午後2時

場所：秦野市下大槻

（公共交通機関をご利用ください。）

問い合わせ先：秦野市生涯学習課

電話 0463-87-5542（展示館）

【臨時公開】

国指定史跡名越切通－まんだら堂やぐら群－

日時：平成20年11月22（土）、23日（日）、
24日（月）、29日（土）、30日（日）

午前10時～午後4時

場所：逗子市小坪7丁目（国史跡名越切通内）

（公共交通機関をご利用ください。）

問い合わせ先：逗子市生涯学習課

電話 046-872-8153

考古かながわ 第40号

発行 神奈川県考古学会

発行日 2008年10月10日

編集 秋田かな子・中川真人・野口浩史（連絡誌担当）

印刷 （有）湘南グッド

発行者 神奈川県考古学会 会長 岡本孝之

〒252-8520 藤沢市遠藤 5322

慶應大学 岡本孝之研究室 気付

郵便振替 00240-9-71208

e-mail soumu@koukokanagawa.net

URL <http://www.koukokanagawa.net>